

## IV 西五反田事業部報告

### 1 総務部

#### (1) 活動報告

平成 27 年度は事業部の年度目標である、「介護報酬の改定を受け複合施設の特徴を活かし効率の良い運営」に基づき、特に「人材の安定」「稼働率の向上」「職場環境の整備」「コト削減（無駄の削減）」「地域連携」を推進しました。

稼働率の向上については、ケアホーム西五反田の稼働率を上げるために、退居後の居室を速やかに整備し、受入れ期間を短縮することに専念しました。結果、今年後 24 名の退居がありましたが、居室整備終了までの期間が平均 7 日となり、目標の 10 日以内を達成できました。

人材の安定については、ケアホーム、デイサービス、訪問介護の 3 事業所の人材確保をするために、インターネット媒体を通じ、またカイゴジョブフェスタへ参加する等人材確保に努めました。今年度の採用者数は、ケアホームを除き、他の事業所は予定数の採用ができましたが、ケアホームでの派遣費用が予算超過し、次年度への繰り越し課題となりました。

職場環境の整備については、5S 活動を根底にした、「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」の観点を持ちながら、毎月 1 回館内巡回を行いました。該当する所属長に結果を報告するとともに、指摘事項を館内のお知らせに掲示し改善を促しました。また、ベスト 5S 賞と称して表彰する形式を用いて、変更前と変更後をわかりやすく掲示したことで、職員对环境に対する意識が向上しました。

#### (2) コスト削減

コストの無駄を省くため、昨年（平成 26 年）11 月に主要な電球を LED に変更しました。またその他にも電気料削減として、ご入居者・ご家族に不便のかからない範囲で照明を抑える取り組みを行いました。また、パソコンの画面電源や全館の電気を業務上に支障がない範囲で OFF にして、小さな電力も抑える意識で取り組みました。しかし、夏季の暑い時期が長く続き電力消費量が昨年よりも上がる結果となりました。ガスについては、冬の暖房稼働時は、これまで 24 時間稼働させていたものを必要最低限の時間帯のみ稼働させる節電対策を実施しました。

これらのコスト削減対策の結果は次の通りです。

	使用量		平均単価		年額料金	
	27 年度	26 年度	27 年度	26 年度	27 年度	26 年度
電気	644,24kwh	618,67kwh	19.71 円	21.86 円	13,749,000 円	15,901,000 円
ガス	12863m <sup>3</sup>	12921 m <sup>3</sup>	90.59 円	117.75 円	16,365,000 円	19,581,000 円
水道	17,29 m <sup>3</sup>	1684 m <sup>3</sup>	—	—	10,783,000 円	10,513,000 円

- ・電気 昨年と比較して、使用料は上がりましたが、単価が下がったため、結果的には、料金の削減につながりました。
- ・ガス 昨年と比較して、使用量、単価とも削減できたことで、年額も削減できました。
- ・水道 昨年と比較して、使用料、年額ともに削減することができませんでした。

### (3) 設備管理

日常の建物設備管理・点検報告の他、管理会社と定例会議を実施し、大型修繕工事を品川区の助成金を活用して行いました。今回は、3件の大型修繕工事に着手することができました。

### (4) 防災・震災対策

- 1) 防災訓練は年間4回実施しました。内2回の訓練は以前の訓練内容を大幅に見直して、より実践に近い訓練内容に変更し、出勤者全員参加を基本とした訓練を実施しました。
- 2) 複合施設としての地域防災機能の連携と強化を図るため、隣接する区民住宅、品川区大崎第一地域センター、各テナントで構成する「共同防火管理協議会」主導の地域防災会議にこれまでと同様、積極的に参加しました。
- 3) 谷山会(町会)主催の防災訓練にも参加し、地域との連携を深める訓練を実施することができました。

### (5) 総務

- 1) 職員に対する法定健診および生活習慣病健診は昨年度と同様に実施し、二次検査該当者のうち要注意者に対しては産業医面談を行い、健康意識の向上と具体的な生活改善指導を行いました。また、産業医との連携を図り、安全衛生のための職場巡回も継続して行い、職員や職場労働環境にも気を配りました。
- 2) 健康管理室と連携し、全職員を対象とした感染予防対策(講習・研修)と、うがい・手洗いの励行を周知徹底させるため、職員・ご家族に対しての啓蒙(ポスター掲示・お知らせ送付・実績管理)に努めました。
- 3) インフルエンザ対策として、例年通り11月に職員向け予防ワクチン接種を一齐に実施し、ご家族の面会制限とマスク着用のお願いや、1日2回の手すり等の塩素消毒清掃徹底に努めましたが、2月~3月にかけて断続的にインフルエンザ感染が確認されました。

### (6) 経理・請求

- 1) 毎月の運営連絡会等において、事業部門ごとの月次収支報告を行い、目標稼働率の再設定や、収支見込と年度見通しを予測しました。
- 2) 毎月の支出項目に関するグラフ化を充実させ、運営コストの予算・実績推移をわかりやすく提示し、経費削減に努めました。
- 3) 各事業所との連携を密にして、国保連・利用者への請求と入金管理を徹底し、未収金が発生しないよう相互チェックに努めました。

## (7) 地域活動

### 1) ボランティア活動者状況

定期活動 ケアホーム 月平均 23名 年間延べ 611名  
在宅サービスセンター 月平均 21名 年間延べ 572名  
イベント 年間開催件数 5件 延べ13名

### 2) 施設活動

在宅部門 地域交流事業及び介護者教室（介護支援事業所出前講座含む）6回  
ケアホーム イベント委員会補助、お誕生日会 8回  
さくらハイツ 健康相談 相談件数 3回 3名  
健康トーク 開催件数 6回 11名  
広報誌「にしご介護通信」5月、12月の年2回発行

### 3) ボランティア関係

- ア ボランティア懇談会においては、活動趣旨やニーズを理解し、ボランティア活動意欲向上を目指しました。3月の開催日には、18名の方が参加されました。
- イ 7月から9月にかけて行った、ケアホーム西五反田及び在宅サービスセンターでの体験ボランティア活動には、延12名の方が参加されました。
- ウ 地域貢献制度の推進を図った結果、対象者52名の方に総計975ポイントを交付することができました。

### 4) 地域交流

地域との交流に関しては、例年通り『7月の夏祭り』『9月の敬老コンサート』と、地域交流事業を谷山会（町会）と合同で開催、協働しました。特に『7月の夏祭り』は谷山会との恒例行事として定着し、ご入居者・ご利用者、ご家族の皆様、そして近隣の住民の方からの満足度が高くなっています。

また例年通り大崎第一地域ふれあいサポート会議及びふれあいサポート交流事業、在宅介護支援センター認知症予防事業、谷山会員として区民祭り、地域防災訓練、餅つき大会等に参加し、地域交流を深めました。社会福祉協議会主催の『ふくしまつり』には本年度もバザー参加しました。

### 5) 支援活動

- ア 品川ボランティアセンターへ使用済み各種カードと切手の提供。
- イ かもめ工房及び、芸術者協会からの作品購入。
- ウ エコキャップ事業への支援活動。
- エ 地域貢献制度の推進とポイント交付事業の実施。

## (8) 総務関連定例会議等

- 1) 安全衛生委員会 毎月第4水曜日
- 2) 防災訓練 実施4回（5月・8月・10月・2月）
- 3) 総務会議 毎月第4水曜日
- 4) 委託業者会議 毎月第2水曜日

## (9) 職員の配置状況

平成 28 年 3 月 31 日現在

	勤務 形態	施設長 管理者	看護師	介護職	福祉員	介護支援 専門員	理学 療法士	管理 栄養士	事務職	介護等 補助	合計
ケアホーム	常勤	1	3	24	1	2					31
西五反田	非常勤		9	40			1			12	62
さくらハイツ	常勤	1									1
西五反田	非常勤			3							3
総務部	常勤								4		4
	非常勤								9		9
西五反田ヘルパー ステーション	常勤	1		1							2
	非常勤			22							22
西五反田在宅 介護支援センター	常勤	1				9					10
	非常勤					1			1		2
西五反田在宅 サピセンター	常勤	1		3	3		1				8
	非常勤		2	9	0					3	14
合計	常勤	5	3	28	4	11	1	0	5	0	57
	非常勤	0	11	74	0	1	1	0	9	15	111

## (10) 職員定期健康診断等

- 1) 深夜業従事者健康診断 5月～6月
- 2) 全職員対象健康診断 11月～1月
- 3) インフルエンザ予防接種 11月

## 2 ケアホーム西五反田

### (1) 活動報告

平成27年度は、8つの重点目標に取り組みました。

#### 1) サービス計画の質向上

ご入居者個々を理解し、生活の質向上に向けてサービス計画に基づくケアを提供することに取り組みました。平成27年度は23名の新規ご入居者全員に事前訪問を行い、サービス計画作成担当者を中心として、入居前の生活習慣や環境を取り入れた個性の高いサービス計画の立案を行うことができました。

#### 2) 教育研修体制の強化

フロアの運営力を高めるために介護・看護協働のもと委員会やプロジェクトを運営し、技術だけでなく接遇、昨今課題となっている虐待に対する意識向上のための研修を行いました。特に事故対策委員会や教育委員会、看取りプロジェクトはリーダー・サブリーダー職員を中心に配置し、15回の研修会・勉強会を開催しました。

また、しなやくやポーラと連携しての専門知識の取得に対する研修と併せて、介護福祉士取得に向けた研修も初めて実施し、6名の新たな介護福祉士合格者を出すことができました。

勉強会や研修に関する状況は次の通りです。

ア 委員会・プロジェクトによるケアの基本研修を以下の通り実施しました。

5月13日	就寝介助について	参加者	4名
6月12日	看取り指針について	参加者	15名
7月14日	入浴介助について	参加者	14名
8月18日	レビー小体型認知症について	参加者	15名
2月15日	看取り介護について	参加者	20名
3月25日	入浴介助について②	参加者	7名
3月28日	認知症ケアについて	参加者	13名

イ マザアス本部による総合研修に以下のように参加しました。

4月2、3日	新入職員研修	参加者	6名
7月7日	基礎研修	参加者	2名
10月1、2日	新入職員研修	参加者	1名
11月25日	介護福祉士受験対策研修	参加者	9名
8月～2月	助成金6か月研修	参加者	2名

ウ 外部講師を招いての研修を以下の通り実施しました。

6月26日	点眼薬について	参加者	8名
7月28日	お化粧品について	参加者	6名

#### 3) フロア特性を活かした目標設定

チームケアの質とやりがいの向上のため、フロア職員が目標作成に参加する体制を作

り、フロアが目指すケアに職員が納得し業務に集中できる目標を設定しました。  
各フロアの運営目標と達成成果については下記の通りです。

#### 【2階フロア】

「ご入居者のために情熱を捧げるフロア作り」  
を運営目標に掲げ、取り組みました。

- ①フロア職員をレクリエーション、環境整備、事故対策、職員教育の4つのチームに分け、全員がフロア運営に直接かかわる体制を作り、専門性を持って課題に取り組むことで課題の解決を図りました。
- ②毎月のフロア会議の中で「今必要とされるケア」の研修を行うとともに、申し送りの体制の見直しを行い情報共有の強化を図り、職員ごとのケアのレベルの均一化を図りました。

#### 【3階フロア】

「ご入居者のできることを見守り、したいこと・してきたことを手伝い見守る介護ができるフロア」  
「ご入居者一人ひとりが笑顔で安心して生活できるフロア」

以上の2点の運営目標で一年間取り組みました。

- ①フロア職員を物作り、園芸、体操・イベントの3つにチーム分けし、異なる切り口でご入居者の「できること」「したいこと」「してきたこと」を探り実践することで、ご入居者の満足度を上げるとともに、職員のやりがいに繋げました。
- ②介護事故について、事故対策委員会が中心となってフロア会議内で報告する機会を設け、職員の介護事故に対する意識を上げるとともに、事故内容、件数を掲示することで介護事故減少を図り、安心できる生活を目指しました。

#### 【4階フロア】

「ご入居者が元気・笑顔で生活し、職員が同じ気持ちで自立支援できるフロア」  
を運営目標に掲げ、取り組みました。

- ①職員のフロア研修を積極的に行うことで、職員一人ひとりの介護技術の水準を引き上げ、職員の違いによるケアの差をなくすことに努めました。
- ②認知症理解のための勉強会をフロア会議内で定期的に行い、認知症ケアのスキルアップを図りました。

#### 4) 介護と看護の協働強化

27年度は施設内でご逝去された方が14名いらっしゃり、終末期を満足して迎えることができる体制を作るため、看取り介護における介護と看護の協働を図りました。

看取りプロジェクトでは新人職員を中心として改めて看取り指針の勉強会を実施し、DVDを用いるなど今までと違った形で看取り介護の考え方を伝える研修を実施しています。ご逝去されたご入居者に関しては、看取りケアの振り返りをプロジェクトメンバーが中心となって行い、職員へ伝達することで看取りケアの質の向上を図っています。

認知症ケアに関しては「くもんの学習療法」を円滑に行うための体制作りを進めました。認知症プロジェクトで定期的に学習療法を行う段取りを組み、今まで学習療法を行っていなかった2階でも、1名のご入居者に学習療法を開始し継続することができるよ

うになりました。またレビー小体型認知症のご入居者が増えたことを受け、レビー小体型認知症のフォーラムにプロジェクトメンバーを参加させ、伝達方式の研修を行うことで職員間に対応を伝達しています。

#### 5) 品川福祉カレッジの活用推進

品川福祉カレッジの施設ケア研修に研修生3名とファシリテーター1名を派遣し、年間を通してフロア研修を行いました。ボランティアの活用方法の見直しは明確な指針が出せず、活動内容、回数共に変化はありませんでしたが、一部の方にはなりましたが入居者のサービス計画の中で、近隣商業施設（ローソン）への外出の機会を設ける方が増える等、ご入居者の生活満足度の向上に寄与することができました。

#### 6) 年間稼働率 96%の達成

経営安定のため、年間稼働率96%の維持を目指し、退居から入居までの期間を14日以内、入院から退院までの期間を20日以内にする目標を掲げ取り組みました。

昨年との比較は次の通りで、受け入れに関しては退去者の数が昨年の16名から23名に増加しているため、総空室日数は増加しておりますが、総務との連携により退去後の居室整備期間は平均7日となり、居室1件当たりの新規受け入れまでの日数は少なくなりました。

退院までの日数に関しては精神疾患の治療のため3か月以上の長期入院をする必要がある方が2名いらしたことから、平均入院期間は長期化し、結果として、平成27年度の年間稼働率の実績は、95.3%となりました。

##### ア 新規入居受け入れに要する期間

平成26年度 24.0日 (総空室日数 505日)

平成27年度 22.3日 (総空室日数 567日)

##### イ 入院から退院までに要する期間

平成26年度 入院者数 21名 平均入院期間 22.1日

平成27年度 入院者数 30名 平均入院期間 29.3日

#### 7) 感染予防対策の強化

感染症対策として入社時の社内オリエンテーションに於いて、感染症についてのオリエンテーションブックを用意して説明することで、感染症への意識を高めています。昨年に引き続きフロア会議内での感染予防のためのミニ勉強会を開催し、職員の知識習得、意識向上に努めています。

防災関連の取組みとしては、避難所としての定期的な防災備蓄品の見直しや補充を行いました。また避難訓練も例年通り以下の日程で実施しておりますが、新入職員には入社時オリエンテーションの中でも防災設備や避難経路については丁寧な説明を心掛け、非常事態の際には職員全員が迷わず動けるよう教育しました。

##### 【感染予防勉強会実績】

4月 手洗いについて 参加者 8名

5月 カビについて 参加者 24名

6月	食中毒について	参加者	26名
7月	感染性角結膜炎について	参加者	17名
8月	インフルエンザについて	参加者	23名
9月	ノロウイルスについて	参加者	19名

【防災訓練実績】

8月26日	夜間火災防災訓練	10月26日	総合防災訓練
2月24日	総合防災訓練		

8) CS向上対策の強化

ご家族からの意見を頂戴する機会を増やすために、返送可能なご意見書を全員に送付するなどしてご意見の収集に努めました。そこで頂戴したご意見を含め接遇改善や虐待防止のため、大学講師や品川介護福祉専門学校教員といった教職の専門家に研修を依頼し、研修内容を随時相談しながらケアホーム西五反田に必要な研修を2回開催しました。またご意見はフロア会議を通して職員へ周知し、運営懇談会でご家族へ報告しました。

【研修実績】

7月8日	接遇について	参加者	24名
9月8日	虐待について	参加者	29名

(2) 入退去状況

平成27年度 入退去状況 定員81名 (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	3		1		3	2	2	3	2	3	2	2
退去	2		1	3	1	2	6		3	2	2	
月初	80	81	81	81	78	80	80	76	79	78	79	79
月末	81	81	81	79	80	80	78	79	78	79	79	81



平成27年度 入退去内訳

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	病院			1			1	1	1			1	1	6
	老健	1				1						1		3
	他施設	1									1			2
	移り住み	1				1		1	2	2			1	8
	在宅					1	1				2			4
	計	3	0	1	0	3	2	2	3	2	2	3	2	2
退去	療養型							1						1
	在宅													0
	施設外退去				2		1	2			1			6
	施設内退去	2		1		1	1	3		3	1	2		14
	他施設				1									1
	計	2	0	1	3	1	2	6	0	3	2	2	0	22

※施設内での看取りについては、医師からの状態説明の後、話し合いを重ね、ご家族の意向を受け対処しているものです。

※平成28年度も引き続き、稼働率の安定稼働を目指し、空室期間の減少、入院者の早期退院と受け入れ努力、並びに長期入院時の契約一時停止の履行について、更に注視しながら運営を行ってまいります。

(3) 平成27年度介護度別入居者割合

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	12.50	12.35	12.35	12.35	12.82	12.50	12.50	13.16	11.39	11.54	12.66	10.13
要介護2	18.75	20.99	19.75	20.99	20.51	18.75	18.75	18.42	20.25	20.51	21.52	22.78
要介護3	26.25	27.16	29.63	27.16	23.08	25.00	25.00	25.00	22.78	23.08	16.46	16.46
要介護4	25.00	20.99	20.99	22.22	25.64	26.25	27.50	27.63	27.85	26.92	29.11	30.38
要介護5	17.50	18.52	17.28	17.28	17.95	17.50	16.25	15.79	17.72	17.95	20.25	20.25
平均介護度	3.16	3.12	3.12	3.11	3.15	3.15	3.15	3.13	3.19	3.18	3.22	3.27

※要介護1～要介護2 : 要介護3～要介護5

(32.4%) : (67.6%)

### (3) 健康管理室

点滴件数は昨年度より多く、看取り対応で点滴対応を希望した方が昨年度より増えたためと考えられます。看取り期間も個人により差はありますが、三か月を超えて点滴対応した例もありました。お亡くなりになった方で、心肺停止状態で発見された方が4名居られました。その他、加齢による衰弱で看取りとなった方が9名、病院で亡くなられた方が4名でした。総体的にはケアホーム内での看取り件数は昨年度と大きな変化は見られませんでした。平成27年度は退院して一か月も経たないうちに再入院、または急変されるケースや持病の悪化だけでなく、新たな病状の出現が多く見られました。経管栄養を希望される方は減少傾向にあると思われます。救急搬送は12月までに23件と前年度より増加しており3月までの総数は29件でした。肺炎や心不全の悪化による搬送も多かったのですが持病以外の急変による搬送も多く見られました。

#### 点滴件数（月内延べ件数）

H27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	12	7	4	22	63	62	21	9	27	1	1	1	230

#### 経管栄養施行対象人数（月内一日の平均人数）

H27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	6.5	6.5	6.2	6	5	4.1	4	3.9	3.1	3	3	3.3	4.6

#### 吸引器 月稼働台数

H27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
台数	18	21	13	9	29	21	20	14	9	5	6	7	14.3

#### 救急搬送件数

H27年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	合計
救急搬送	日中	3	2	2	3	4	1	0	3	0	2	1	0	21	29
	夜間	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	1	2	8	

## 死亡退去

H27年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	合計
死亡退去	ホーム	0	0	1	0	1	1	3	0	4	0	2	0	12	17
	ホーム以外	1	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	5	

## (4) 栄養

### 1) 給食管理面

ア 季節食・行事食・イベント食の提供を通じ食事による季節感を味わって頂きました。

#### 季節食・行事食

(加算無し)

毎月：1回(1日)松花堂弁当

5月：ちまき風中華おこわ・かしわ餅(端午の節句)

7月：七夕そうめん(七夕)アイス(海の日)

うな玉丼(土用の丑の日)

8月：芋ご飯・すいとん(終戦記念日)

9月：お月見うどん(十五夜)

きのこご飯・おはぎ(秋分の日)

10月：いなり寿司(体育の日)

12月：クリスマス食(クリスマス)、南瓜煮(冬至)、年越し蕎麦(大晦日)

1月：おせち(元旦)七草粥(人日の節句)、おしるこ(鏡開き)

2月：五目ちらし寿司・甘納豆(節分)トリュフチョコレート(バレンタイン)

3月：五目ちらし寿司・白桃羹(雛祭り)、春色3色丼・ぼたもち(春分)

#### イベント食

(加算あり)

年間：さくら寿司(2回/年)

9月：敬老お祝い膳・紅白饅頭(敬老の日)

12月：クリスマスディナー・クリスマスケーキ(クリスマス)

1月：お正月料理(お正月)

### 2) 団らん食(食事の手作り)

・白玉ぜんざい・スイートポテト・育てた野菜でピザトースト作り・いちごムース

3) さくらハイツでは食を通じて、入居者同士のコミュニケーションが目的の、楽しみの為のクッキング(手作りおやつと茶話会)を実施しました。

・よもぎ団子・行楽弁当・抹茶白玉かき氷・きんつば・いちご大福

<栄養管理面>入居者の体格指数（BMI）の状況は以下の通りです。

H27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18.4未満	29	27	28	25	29	31	30	27	28	28	28	28
18.4～ 25未満	46	50	50	47	45	41	40	44	41	32	43	46
25以上	3	3	3	3	3	3	3	5	5	6	6	5
その他 未測定	3	1	0	6	4	6	8	5	7	5	4	2

【※18.4未満：やせ

18.4～25未満：正常

25以上：肥満】

#### 4) 食事と栄養の傾向

業務委託先をイフスコヘルスケアに変更し、3年目を迎えました。調理に関しては給食委員会での意見を中心に都度改善の為の話し合いを行っている為、現在ご入居者からは好評の声をいただいております。

ケアホームでは、団らん食の実施をお誕生日会で行う等委員が工夫して数回実施できました。毎月1日季節食のおやつは練りきりと決まっていたましたが、不評との事で季節に合ったおやつを給食委員会で決める事としました。

ここ数年で個別対応が必要とされる方が増え、個人的な要望も細かくなって来ている傾向にあります。

さくらハイツでは、選択食の月2回実施を継続。月に1回、うどんとそばをその場で選べるセレクト麺を開始し大変好評です。

介護サービスを受けている方も増え、硬い物が食べにくい・高齢者向けに考えて欲しいとのお声もあり、楽しみの食事と配慮された食事の両面から工夫が必要と感じています。

### 3 さくらハイツ西五反田

#### (1) 活動報告

前年度より移り住み、退去、居室の移動と続いたことを受け、今年度も年度当初から新規入居の受け入れや移り住み、二人部屋から一人部屋への移動がありました。

また、年度末に急遽移り住みの方が決まる等、今年度末までの入居登録者の方との契約、入居の準備を進めた事から例年と比較して入退去が多い1年となり、入居登録者名簿も一人部屋9番目、二人部屋4番目（辞退者を含む）と、登録者名簿の下位の方の入居となりました。

運営面では今年度も年間通して移り住みや、居室の移動があり、またその方々が全員、開設以来のご入居者であった事から、経年劣化による修繕費用が予算超過の状況となっています。

開設から12年間が経過し、さくらハイツでは約半数の方を新たなご入居者としてお迎えし、これに伴い、ご入居者の平均年齢も上がり、介護保険を利用されていた方の移り住みが進んだことで、介護保険の利用者数は減少しましたが、在宅サービスの利用者の平均介護度は上がっている状況で、高齢化、重度化している状況です。

持病や、思わぬ疾患で入院になる方も増え、入院を機に心身の状況が変わる方も多くなり、手厚い介護サービスが必要な方、また、高齢化による生活面の支援が必要なご入居者が増えています。

今年度は、新たにご入居者になった方々の安心した生活に向けた支援と、これまで生活を継続してこられたご入居者の個々の心身状況に合わせた個別支援が必要になった方が増えたことを踏まえ、より個別性を重視した、さくらハイツ入居者の生活支援に努めました。

また、今年度も昨年度に引き続き、開設以来全員加入であった『介護の安心基金』について、加入者全員を対象とした見直しがありました。

そういった状況を受け、平成27年度は、次の通り5つの重点目標に取り組みました。

#### 1) 入居者の状況把握と支援プランの作成

個々の心身状況と生活状況を踏まえ、介護サービスのご利用者や入院等で変化があった方を中心に個別支援プラン作成しました。また、状況に変化が見られた方を中心に適時個々にお話を伺いました。ご質問やご意見のお申し出のあった際も、都度個別に面談を実施しました。

今年度も生活面で変化が見られた方や、判断力・理解力に心配のある方、入院等で急激な心身状況の変化が生じ、支援の内容に大幅な見直しが必要となった方々については、今後ハイツでの生活が可能かどうか、ハイツで生活を維持するためにはどのような支援が必要かについて、ご本人、ご家族とも面談を重ね、関係事業所とも連携をとり支援を進めました。

また、適宜、職員間の情報交換、情報共有のためのミーティングの機会を設けました。

#### 2) 安心基金について

昨年度、老人福祉法の一部改正に伴い『介護の安心基金』について制度の見直しがされたことを受け、今年度は、更に全ご入居者を対象とした『介護の安心基金』の大幅な見直しを行いました。その見直された内容について、説明会を開催し、個別の説明が必

要な方には都度説明の機会を設け、十分な理解の元に手続きが進められる様、説明に努め、手続きを支援しました。また、介護の安心基金未加入者も安心して生活が継続できる様、施設の基本サービスについても説明会を実施しました。

### 3) 介護予防の取り組みについて

本年度も引き続き「ハイツ独自の介護予防」を目指し、“さくらハイツいきいきクラブ”を①「健康体操」②「散策」③「脳トレ」を三本柱として継続して実施しました。今年度は、ケアホーム理学療法士の協力による健康体操を実施したところ、参加者も増加しました。しかし、冬場に担当理学療法士が怪我にて長期療養となったため、講師実施のビデオを参考に進めるなど、引き続き健康維持活動に取り組みました。

また、外出が困難になってきた方の楽しみとして、施設内の趣味活動の提供として毎月1回映画鑑賞会や、「季節の茶話会」を定期的開催して、ご入居者同士だけではなく職員との交流や季節の雰囲気を楽しむ機会を持ちました。

また、忘年会を開催し、在宅部門やケアホームの職員とも交流の機会を持ちました。

### 4) 介護サービス等の支援を必要とするご入居者に対して

介護サービスを必要とされる方に対して、さくらハイツでの生活継続支援のためにも、適切な時期に介護保険認定申請の援助を行い、サービス提供部門との連携・調整を図りました。さくらハイツで生活が継続できる様、また適切なサービス利用に繋がるように、ケアマネージャーとの連携や、訪問介護スタッフの早期の関わり、その他必要な介護サービスの導入につなげました。また、特に併設の事業所間の連携を強化して情報共有を図り、カンファレンスや担当者会議にも積極的に参加しました。

### 5) 施設の安定稼働について

今年度も、年間を通して慌ただしい状況でした。新規入居から始まり、移り住み、その移り住みを受けての居室移動と、今年度は2組の二人部屋への入居があった状況です。入居登録者に行った現況調査で入居の意思が確認できていた事もあり、入居の意向が速やかに確認できました。

今年度も各居室の移動等に伴う、空室期間がありました。新たなご入居者も早期に意思決定をされ、契約に繋がり、速やかに入居していただくことができました。

### 6) その他

#### ア 職員研修の実施

職員の交代もあり、なかなか内部研修に繋がりませんでした。引き続き感染予防への取り組み、要介護者が増える中では、高齢者の権利擁護といったことが新たな課題となりました。

#### イ 安全管理

##### ①防災訓練

防災対策委員会の協力の下、災害に備えた防災訓練を他部門と連携して実施しました。さくらハイツ職員は西五反田複合施設の他部門の防災訓練にも参加しました。

##### ②感染対策

感染対策委員会に毎月参加して感染症に関する情報の共有と予防に努めると共に、流行時期にはご入居者に対して感染症予防の情報発信と、感染拡大防止に努め、感染者への対応も関係部門と連携して行いました。感染予防の啓蒙を目的とした、手洗い

講習会をご入居者対象に年2回開催しました。

③設備点検

年1回の職員による緊急設備点検を予定通り実施し、ご入居者と一緒に確認をしました。

ウ 食の楽しみの強化

通常のメニュー食の他にも、有料により選択ができる「選択加算食」を月1~2回実施し、イベント食・行事食と合わせて月2回以上実施しました。

エ 移り住みの支援

移り住みを希望されたご入居者が適切な時期に速やかに安心して移り住みができるように、ご家族や関係機関と密に連絡を取り合い、また面談を重ね、移り住みにつなげました。

オ 新規入居の受け入れ

新規入居者が、安心して入居につながる様に、早期に連絡、面談を実施し、円滑な入居ができる様に準備を進めました。

カ 入居登録者募集の実施

平成28年度から2年間を対象とした入居希望者の確保のため、新規の入居登録者の募集を実施しました。

(2) 入居の状況 (3月1日現在)

(単位：人数)

		一人部屋 (35室)	二人部屋 (4室)	合計
定員		35	8	43
入居者	男性	2	4	6
	女性	33	4	37
	合計	35	8	43

(3) 入居者の年齢構成 (3月1日現在)

(単位：人数)

	60~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~90歳	90歳~	合計	比率 (%)
男	1	0	0	4	1	0	6	14.3
女	0	6	6	16	4	4	36	85.7
合計	1	6	6	20	4	4	41	100

平均年齢 男 80.0歳 女 81.6歳 全体 81.3歳

(4) 会議・行事等

	会 議 等	イベント・行事関係等	いきいきクラブ
4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体測定</li> <li>・お茶会</li> <li>・緊急設備点検</li> <li>・健康トーク</li> <li>・クッキング</li> <li>・映写会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見散歩</li> <li>・健康体操 2日、9日、16日 23日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
5月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端午の茶話会</li> <li>・お茶会</li> <li>・映写会</li> <li>・防災訓練</li> <li>・クッキングハイキング</li> <li>・EVケーブル工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操 7日、14日、21日、 28日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防設備点検</li> <li>・お茶会</li> <li>・手洗い講習会</li> <li>・健康相談</li> <li>・クッキング</li> <li>・映写会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操 4日、11日、18日 25日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
7月	安心基金運営委員会 総懇談会・懇親会 『介護の安心基金』見直しに関する説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭り</li> <li>・お茶会</li> <li>・七夕茶話会</li> <li>・映写会</li> <li>・健康相談</li> <li>・脱水予防勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操 2日、9日、16日 23日、30日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶会</li> <li>・健康相談</li> <li>・健康トーク</li> <li>・クッキング</li> <li>・映写会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操 6日、13日、20日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
9月	運営懇談会 安心基金運営委員会 『介護の安心基金』見直しに関する説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶話会</li> <li>・お茶会</li> <li>・敬老祝賀会</li> <li>・映写会</li> <li>・共同防災訓練</li> <li>・ジャズコンサート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操 3日、10日、24日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶会</li> <li>・エレベーター点検</li> <li>・健康トーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩（自然教育園）</li> <li>・健康体操</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い講習</li> <li>・映写会</li> <li>・クッキング</li> <li>・身体測定</li> </ul>	1日、8日、15日 22日、29日 ・脳トレ
11月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶会</li> <li>・映写会</li> <li>・排水管清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散策（神宮外苑）</li> <li>・健康体操</li> <li>5日、12日、26日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水溝清掃</li> <li>・お茶会</li> <li>・消防設備点検</li> <li>・忘年会</li> <li>・健康トーク</li> <li>・クリスマス会</li> <li>・クリスマス茶話会</li> <li>・映写会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操</li> <li>3日、11日、18日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
1月	運営懇談会 入居登録見学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賀詞交換会</li> <li>・お茶会</li> <li>・お汁粉茶話会</li> <li>・映写会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散策（目黒不動尊）</li> <li>・健康体操</li> <li>28日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
2月	入居登録募集抽選会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶会</li> <li>・クッキング</li> <li>・健康トーク</li> <li>・映写会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操</li> <li>4日、11日、18日</li> <li>25日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>
3月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雛祭り茶話会</li> <li>・停電試験</li> <li>・お茶会</li> <li>・クッキング</li> <li>・映写会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操</li> <li>10日、17日、24日</li> <li>31日</li> <li>・脳トレ</li> </ul>

(5) 入居者の介護状況（3月1日現在）

（単位：人数）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4
男性	0	0	0	0	0	0
女性	1	0	3	0	2	2
合計	1	0	3	0	2	2

平均介護度 全体 2.38

(6) 入居者の介護サービス利用状況（3月1日現在）

訪問介護	8名
通所介護	4名
訪問看護	1名
福祉用具	8名
訪問マッサージ	1名
訪問リハビリ	1名

(7) 給食管理

【選択加算食実施報告】

H27年度『加算食一覧表』	
4月	天ぷら・お刺身
5月	さくら寿司・ヒレカツ
6月	うな丼・焼き魚
7月	ポークソテー・(懇親会メニュー)
8月	うな丼・ミックスフライ
9月	さんま・(敬老祝い膳)
10月	海鮮塩焼そば・天ぷら
11月	煮魚・さくら寿司
12月	お刺身・(クリスマス食)
1月	(正月メニュー)
2月	ヒレカツ・お刺身
3月	お刺身・天ぷら

## 4 西五反田在宅サービスセンター

### (1) 活動報告

平成27年度は通所介護事業において厳しい介護報酬改定が実施され、それを踏まえたサービス体制の確保、質の向上に努めるとともに、平成26年度より取り組んでいる「複合施設の機能を生かしたサービスの連携強化」に向けて、施設内事業所間での情報共有を円滑に行う事を基本とし、更なる連携の強化に努める事で、稼働率の安定を目指す運営を心掛けました。

また、地域に対しては、地域住民のボランティアの充実に努め、ボランティア懇談会を通して、日頃より協力いただいているボランティアの方と職員との交流の場を作りました。例年行っている地域交流事業は、高齢者複合施設全体でのイベントを企画し、地域住民参加型の行事を開催しました。また、28年度からの認知症カフェの運営を見据えて、コミュニティーカフェ開設講座への参加や、他区の認知症カフェへ参加をしました。地域の企業や学校関連との交流の機会を持てるように、繋がりは出来たのですが、具体的な交流の継続までは至りませんでした。今後も地域交流の機会を増やしていきたいと考えています。

### 1) 通常規模通所介護

#### ①通所介護

平成26年10月に行われた品川区の実地指導検査に於いて、急なキャンセルを見越して利用定員数を超えた予定者を組むことは好ましくないとの指摘があり、利用予定者が定員を超えない適正な管理体制を維持しましたが、稼働率の低下につながってしまいました。その結果を受け、平成27年度は利用定員数を30名から35名に引き上げて、30名を100%とし、余剰で5名登録ができるように対応いたしました。それにより通所介護の稼働率は平均92%と安定してきました。

#### ②介護予防・日常生活支援総合事業

平成27年度より品川区では、介護予防・日常生活支援総合事業に移行し、介護予防通所介護が介護予防給付から外れ介護予防通所事業が開始されました。品川区独自の「いきいき活動支援プログラム」の指定を受け新たなプログラムの創出や運用の方法を模索してきました。また、品川区の委託事業として『マシンでトレーニング・予防ミニデイ』を半年1クールとして、上期・下期と実施してきました。マシンでトレーニングでは、午前・午後の講座とも実施期間後の修了式で、利用者の成果データを表にした修了書をお渡ししています。

#### ③個別機能訓練

個別機能訓練加算Ⅰの算定要件の変更に伴い、3ヶ月に一度の自宅訪問が追加され、本人や家族のニーズや自宅の環境を踏まえたアセスメントを行う体制を整備しました。また、機能訓練実施実績数は昨年度よりも800件以上増えており、介護職員が機能訓

練に関わる体制も整備しました。

## 2) 認知症対応型通所介護

東京都認知症ケア実践者研修や品川区認知症ケア基礎研修に職員が参加し、認知症ケアの中心となる職員の育成に努めました。稼働状況は、今年度もご利用者の新規利用が伸び悩み 50%前後の稼働となり、既存の利用者のご逝去や利用中止もあり、昨年度以上に稼働率は落ち込みました。対策として、認知症対応型通所介護の職員の一部固定化や、プログラムの見直し、送迎対応の一部見直しを行い、ケアマネージャーに活動内容を報告する事により、3月時点では徐々にではありますが利用者数が増えている状況です。

### (2) ご利用者の利用状況について

27年度4月より届出上は利用定員を35名としていますが、稼働率は30名で100%で設定しています。通常対応型の延べ人数が26年度より600人程増えていますが、認知症対応型の延べ人数が750人程減っています。

#### 【通常対応型】 + 【総合事業】

定員35名/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	26	26	27	27	26	27	25	26	24	25	26	311日
延回数	693	697	719	758	728	720	772	725	716	628	691	777	8624人
稼働率	888	894	922	936	933	923	953	967	918	872	921	959	923%

#### 【認知症対応型】

定員12名/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	26	26	27	27	26	27	25	26	24	25	26	311日
延回数	106	101	107	122	99	84	73	79	90	78	86	118	1,143人
稼働率	56.1	53.7	50.7	45.7	52.2	52.6	54.9	51.7	52.2	51.7	47.2	42.6	50.9%

#### 【全体の稼働率】

定員42名/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率	732	731	756	776	75.7	736	745	766	738	700	740	789	74.7%

【機能訓練実施実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
要介護 延人数	382	371	417	465	435	415	451	477	441	359	431	471	5,115人
総合事業 延人数	99	94	85	90	65	85	94	82	77	56	74	86	987人
合計 率(%)	481 79:21	465 80:20	502 83:17	555 84:16	500 87:13	500 83:17	545 83:17	559 85:15	518 85:15	415 87:13	505 85:15	557 85:15	6102人 84:16%

(3) 防災計画

事業所全体としての取り組みでは、施設全体の避難経路の確認や備蓄品の備蓄場所の確認を行いました。被災した時に職員全員が避難経路を熟知していることで、利用者を安全に避難誘導できるように行いました。また、事業所内での避難訓練は施設内で火災が発生した時を想定して、例年と同様に実施しました。

(4) 会議、研修計画および行事

1) 定例会議

平成27年度10月から毎月、毎週水曜日に会議を実施しています

定例会議	
第1水曜	レクリエーション会議
第2水曜	事故対策会議
第3水曜	ケースカンファレンス(利用者)
第4水曜	フロア会議

2) 内部研修

定期的に、機能訓練指導員による介助方法の研修を実施しています

内部研修	
9月	高齢者虐待、人権擁護研修
11月	感染症、吐物処理研修
2月	高齢者虐待、人権擁護研修

### 3) 外部研修

東京都、品川区主催の研修を中心に参加しています

外部研修		人数
6月～	品川区認知症介護基礎研修	1名
6月	東京都認知症介護実践者研修/管理者研修	1名
11月	東京都「高齢者権利擁護研修」	1名
11月～	コミュニティーカフェ開設講座（全6回）	1名

### 4) 実習受入れ

例年通りの看護・介護実習及び、青少年の体験学習の実習の受け入れを行いました

実習受入れ	
8月	青少年体験学習
6～7月	昭和大学医学部付属看護専門学校「老年看護学実習」

### 4) 行事

年間行事

月	行事名	対象者
4月	花見会	デイ利用者
7月	地域開放事業「夏祭り」	デイ利用者 複合施設利用者
9月	敬老会	デイ利用者
9月	地域開放事業「敬老会」	デイ利用者 複合施設利用者
11月	外出プログラム	デイ利用者
1月	初詣	デイ利用者
2月	節分	デイ利用者

月間行事

月	行事名	対象者	備考
毎月	誕生日会	デイ利用者	カード贈呈など

介護者教室

月	教室名	対象者
6月	高齢者の美容と健康について	品川区民
10月	医療費控除をうまく活用するために	品川区民

## 5 西五反田在宅介護支援センター

### (1) 活動報告

平成27年度の居宅件数は当初目標としていた年間4,111件を上回り4,568件111%の伸びを示しました。前年度比としても109%の伸びとなり居宅件数の目標数に達し、収入目標と併せて達成することができました。

昨年度より強化してきた在宅部門との連携につきましては、通所介護・訪問介護ときめ細かな連携を図り、利用者の在宅生活の安心に繋げることができ、特に独り暮らし高齢者の方への支援に大きな成果が得られたと考えております。

また、施設入所の希望に関しても区内の特別養護老人ホームの案内やケアホーム西五反田など身近な施設への入所支援を行うことで介護する家族や利用者の方に安心して在宅生活を送っていただく事ができました。

主な目標達成の要因としては、以下の3点となります。

1・ケアマネージャーの増員予防担当者1名・介護担当者1名計2名の増員を図ることで居宅件数を伸ばし、平成28年度に向けての品川区が提示する居宅件数の適正化を図れたこと。

2・地域の高齢者相談窓口として地域住民の方々の相談を受け、医療機関の連携窓口と密に繋がることで利用者と早い段階からかかわることができ、安心して在宅に戻ることができたこと。

3・介護状態になる以前の予防の段階よりかわり信頼関係を作ることで本人の状態により適切な対応が行えたこと。

従いまして、今後とも品川区が示しているケアマネージャー1人あたりの35件数を遵守しつつ、在宅介護支援センターとしての相談窓口業務や、キャラバンメイトの認知症サポーター養成事業の開催・認知症の早期発見等の活動を積極的に行い、地域の方々が安心して在宅生活を送ることができる地域支援に向けて努力してまいります。

居宅事業所としては、地域の方々より選んでいただけるように質の高いケアプランを提供するため、認知症や精神科疾患等各種研修にも積極的に参加ができました。

認知症サポーター養成事業開催等地域を対象とした支援も、大崎警察・大崎郵便局・各金融機関など地域で8回の開催ができました。

多くの参加者に支援センター全体できめの細かいグループワーク等を組み入れ、参加者の方々からは認知症を身近に感じ向き合うことができ、今後認知症の人への接し方に配慮していきたいとの意見を多く参加者の方々から頂きました。

ケアマネージャー業務の充実を視野に入れた施設内での勉強会・検討会、また医療機関や地域の医師会が開催する地域連携などに参加致しました。現在、多くのご利用者は病院の在院日数の短縮化やターミナル推進等で、地域で生活する利用者の医療依存度はここ数年高い伸びを示しています。相談に来所する高齢者や民生委員・地域の方々の相談は、虐待や経済的貧困、家族問題と多くの複雑な問題を含んでいます。これらの相談を、本人、家族、品川区の担当ワーカーや保健センター職員、医療機関、各サービス事業者、そして

地域の方々と丁寧にかかわり、連携することで問題解決に取り組みました。西五反田在宅介護支援センターは居宅介護支援事業所として法令遵守に則った適切な運営を心掛けて、適切な介護サービスの実施に繋がっています。また、西五反田在宅介護支援センターが地域の方に気軽に利用できるように、地域で行われる行事やふれあいサポート会議・地域密着型施設の推進会議等へも参加しました。介護保険などの利用のない高齢者の方々にも、地域の方々に介護保険の仕組みなどの勉強会を開催し地域の相談窓口として気軽に相談が行なえるよう今後とも努めてまいります。

(2) ご利用者の状況

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	計
認定調査件数		41	36	47	43	46	33	46	40	50	44	55	34	515
相談件数		1158	1102	1141	1194	1224	1214	1236	1269	1208	1165	1333	1201	14,445
居宅外相談件数														208
(内訳)	窓口	7	8	5	10	5	4	9	9	6	5	6	4	78
	電話	9	3	8	5	9	5	6	3	6	10	6	8	78
	訪問	5	3	7	5	1	6	5	6	2	7	1	4	52
ケアプラン数														4,568
(内訳)	介護給付	203	208	203	221	221	232	220	226	228	231	231	249	2,673
	予防・総合	163	163	165	158	161	156	158	157	157	153	149	155	1,895
Webサイト作成数														467
(内訳)	介護給付	25	15	13	23	14	17	19	17	20	27	23	27	240
	予防給付	20	21	16	20	12	21	14	15	13	13	21	25	211
	事業対象	2	3	2	1	2	1	0	1	1	1	2	0	16

(3) 実習受け入れ状況 (8名・実習日数が2日)

1) 昭和大学医学部附属看護専門学校(8名)

4月21日・22日 6月23日・24日 7月14日・15日

10月20日・21日

2) 東京医療保健大学(7名・今年度より実習日数が2日に増える)

5月31日6月1日 7月7日・8日 11月2日 11月19日・20日 1

(4) 研修状況

H27年4月	平成27年度認定調査員新規研修	東京都福祉保健局	1名
	健康福祉事業部 新人介護支援専門員研修	品川区高齢者福祉課	1名
	成年後見制度と活用について - 品川後見センタ	品川医師会 (I-ザイ)	3名



	一の取り組み		
5月	東京都介護支援専門員更新研修	東京都福祉保健局	1名
	ケアサポート研修	品川区高齢者福祉課	1名
6月	精神疾患の理解と対応	東京都立中部総合精神保健福祉センター	4名
6月	認知症ケア専門コース	品川福祉カレッジ	1名
	相談支援技術研修	東京都立中部総合精神保健福祉センター	2名
	精神疾患の理解と対応	同上	1名
	地域支援の関連法と地域移行の支援	同上	1名
7月	支援者のためのメンタルヘルス	同上	2名
	歩行からみた認知症とパーキンソン病	同上	1名
	「家族」の見立て方と介入方法	同上	1名
	アデクシオンの理解と支援	同上	1名
8月	高齢者の精神疾患	同上	4名
	ケアマネジメントの質の向上研修	東京都	2名
9月	パーキンソン病を中心に神経難病の最新医療と療養支援	品川医荏原保健センター	1名
	医療と福祉の連携の為の意見交換会	品川区高齢者福祉課 品川医師会・エーザイ	4名
	高齢者の日常生活支援事業	品川ケア協議会	2名
	ALSの基礎知識（在宅ケアを中心に）	荏原保健センター	1名
10月	気分障害を学ぶ	東京都立中部総合精神保健福祉センター	2名
	統合失調症と理解と支援	同上	1名
	品川区キャラバンメイト養成研修	品川区	2名
	主任ケアマネ研修 H27年10月～H28年2月	東京都	1名
	慢性呼吸機能障害の理解と支援講習会	東京都地域支援課	2名
11月～ H28年2月	介護支援専門員実務従事者基礎研修	東京都介護支援専門員研究協議会	1名
11月	口腔機能向上・ケア講座	品川福祉カレッジ	1名
	支援者のための関連法の理解	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1名
	現任ケアマネ研修 ケアマネジメントに不可欠な記録	品川区高齢者福祉課	1名
	癌のリハビリテーション	東京都医療保険公社 荏原病院	1名

	支援のためのコンプライアンス	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1名
12月	東京都介護支援専門員 専門研修過程Ⅱ 計3回	東京都介護支援専門員研究協議会	1名
12月	「在宅医療における認知症管理」	品川・荏原医師会	3名
	パーソナリティ障害からの回復と支援	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1名
	気分障害を学ぶ	同上	1名
	品川区キャラバンメイト養成研修	品川区	1名
	「笑医と感動で医療・介護現場が変わる」	品川医師会	1名
1月	品川区高齢者虐待予防研修会 ～高齢者や家族へのアプローチ～	品川区	2名
	パーソナリティ障害からの回復と支援	厚生中央病院	1名
2月	ケアマネジメントの質の向上研修会	東京都福祉保健局	3名
	地域におけるリハビリテーション	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1名
	「ケースレポート」について考える	東京都福祉保健局財団	1名
	居宅介護支援指定更新研修	品川区	1名
3月	高齢者虐待	品川医師会・エーザイ	2名

#### (5) 内部研修（勉強会）

スタッフが分担して幅広く、各分野での研修に参加し、支援センター内の勉強会で発表することでスタッフ全員の周知とスキルアップを図りました。

H27年 4月	勉強会のテーマを選定 初回面接について
5月	医療連携マニュアルの見直し
6月	相談支援の技術向上
7月	「チャレンジシート」の理解と目標の立て方
8月	在宅部門での連携 ～魅力ある認知症デイについて～
9月	認知症サポーター事業の適切なファシリテーター業務について
10月	防災訓練
11月	地区ケア会議の書式の記入方法とより良い活用方法
12月	予防給付から介護給付への移行の基準
H28年 1月	認知症サポーター事業レベルアップ講座開催に向けて課題と支援方法
2月	総合事業・予防給付・介護給付のマニュアル作成について
3月	予防給付の買い物同行の考え方

(6) 地域交流会

H27年 4月	認知症サポーター養成出前講座（城南信用金庫・本店）
H27年 4月～ H28年 3月	ふれあいサポート活動会議への参加（年4回）
10月	キャラバンメイト認知症サポーター養成出前講座 デイチャーム
6月	キャラバンメイト認知症サポーター養成出前講座 クエスト研究所
	キャラバンメイト認知症サポーター養成出前講座） トミンハイム西五反田4丁目町会の方々
8月	夏祭り
9月	キャラバンメイト認知症サポーター養成出前講座 大崎郵便局
9月	キャラバンメイト認知症サポーター養成出前講座 大崎警察
	キャラバンメイト認知症サポート養成事業出前講座開催 大崎警察
11月	品川区介護者激励のつどい
2月	キャラバンメイト 認知症サポート養成事業出前講座開催 三菱UFJ信託銀行 五反田支店
3月	認知症サポーターレベルアップ事業開催 ～谷山会高齢者クラブ・西五反田民生委員の方々～

## 6 西五反田ホームヘルパーステーション

### (1) 活動報告

訪問介護サービスを利用いただいているご本人、ご家族が、在宅においてその人らしい自立した生活ができるよう、それぞれの有する能力に応じた、心身両面の支援となるよう援助を行いました。

今年度は「新しい見方、考え方から「納得」「満足」「継続」を実現しよう！」を目標に、介護保険法改正を踏まえて「改革」を意識して、業務管理体制の強化、サービス提供責任者の明確な業務分担、会議や研修の充実化等を行うことで、サービスの質の向上に努めました。活動実績においては、期初計画で年間 11,400 件を目標に取り組んだ結果、訪問実績件数は 13,526 件（目標達成率 119% 前年度比 115%）と目標を達成することができました。収入実績については、訪問介護員（登録ヘルパー）の増員と、日曜日の訪問サービス実施による訪問件数の増加、また、サービス提供責任者による定期サービスの件数を増やしたことで、目標達成率 116%と目標を達成することができました。

#### 1) 訪問介護

サービス担当者会議に積極的に参加することで、他のサービス事業所間とのサービス連携を密に行ってきました。また、サービス内容に関しては、ケアカンファレンスや事例検討会をサービス提供責任者中心に実施する事で、事業所内ヘルパー等との情報の共有を行いました。そして、ケアマネジャーの作成したケアプラン内容に基づいて、アセスメントを行い、訪問介護計画書を作成しご利用者、ご家族にサービス内容の説明と同意を得てサービスに繋げています。

#### 2) 介護予防日常生活支援総合事業

品川区では、今年度より介護予防事業としてスタートしました。利用対象者へのサービス内容の説明と同意を速やかに実施する事で、混乱なくそれまでと同様のサービス内容を実施していくことが出来ました。また、新規の事業対象者に対しても同様に、無理なくサービスに繋げていく事に努めました。さらにご利用者の身体状況に合った細かな目標を立て、小さな目標の達成を積み重ねることで、予防・改善の成果に繋がるよう努めました。ご利用者と共に行う自立支援の視点に立った適切なサービス提供に努めました。

#### 3) 有償サービス

有償サービスのさらなる展開・充実に関しては、ご利用者のニーズをもとに、楽しみ・満足につながる適切で安心なサービス提供を提供する事が出来ました。ケアホームとさくらハイツに関しては新たな連携方法を構築する事で、依頼からサービスまでに情報共有を的確に行う事と、サービス後の報告に至るまでの流れを再度検討する事でスムーズに実施出来るようになりました。

(2) ご利用者の状況

1) 月別種類別利用比率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護	78.0	77.8	78.1	82.7	83.3	83.9	85.5	85.2	83.1	82.2	84.4	85.2	82.7
予防	15.2	16.0	15.4	11.5	11.3	10.7	10.3	10.1	11.5	11.7	11.2	10.0	11.9
自費	6.7	6.3	6.5	5.8	5.5	5.4	4.3	4.7	5.4	6.2	4.4	4.8	5.4

2) 月別訪問件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	1,097	1,070	1,018	1,076	1,022	1,088	1,091	926	937	836	832	949	11,942
27年度	943	953	1,031	1,112	1,093	1,124	1,214	1,198	1,247	1,054	1,186	1,371	13,526

3) 月別種類別売上金額

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	2477	2406	2653	3137	3012	3071	3520	3474	3314	3087	3317	3991	37461
予防	483	495	524	436	408	394	422	412	457	438	438	469	5377
自費	214	194	221	220	198	198	176	193	217	232	175	227	2459

4) 月別売上合計金額

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比 (%)
26年度	3678	3904	3860	3632	3504	3946	3844	3314	3288	2829	3076	3228	42105	99.5
27年度	3174	3095	3399	3793	3618	3662	4118	4079	3988	3756	3931	4687	45300	109.3

(3) 会議

各種会議については情報共有を図り、連携を円滑に行うために積極的に参加しました。

ヘルパーステーション会議	毎月第4金曜日
地区ケア会議	毎月第3火曜日
サービス担当者会議	必要に応じて随時
安全衛生・生活向上委員会	委員会で随時開催

施設全体の運営会議	第4水曜日
スタッフミーティング	毎週木曜日

#### (4) 研修状況

事業所内で、定期的に訪問介護員に対して、サービス提供に必要な介護技術や介護知識を向上させる目的で研修を行うことによって、特定事業所加算の算定要件を満たしています。

##### 【内部研修】

月	内 容	人 数
H27年4月	◆事業計画について ◆法令遵守（人権の尊重、プライバシーの保護）	21名
5月	◆介護記録の書き方	21名
6月	◆サービスマナーについて ◆サービス提供に関する個人ワーク	21名
7月	◆緊急対応について①	20名
8月	◆緊急対応について② ◆ヒヤリハット・事故報告書について	21名
9月	◆介護保険法について	16名
10月	◆法令順守について	19名
11月	◆認知症事例検討	21名
12月	◆感染症勉強会	21名
H27年1月	◆感染症勉強会	7名
2月	◆高齢者虐待に関して ◆今年度振り返り①	22名
3月	◆今年度の振り返り② ◆次年度事業計画	17名

##### 【事業部勉強会】

月	内 容	人 数
H27年5月	高齢者虐待について	2名
8月	介護福祉士受験対策勉強会	2名

##### 【外部研修】

月	内 容	主 催	人 数
H27年6月	サービス提供責任者研修	社会福祉協議会	1名
H28年3月	サービス提供責任者研修	お茶の水ケアサービス学院	1名

#### (5) 地域交流会

地域の方々との交流をより一層密にするためにも、例年実施されている地域祭りに参加しました。また、地域支援事業の一環でもある認知症サポーター養成講座については、在宅介護支援センターの補助で参加しました。

月	内 容
H27年5月	さくら祭り
6月	地域交流会「ジャズコンサート」 認知症サポーター養成講座
7月	夏祭り

3月	認知症サポータースキルアップ講座「認知症カフェ」
----	--------------------------